

令和元年9月29日(日)

松戸市福祉長寿部高齢者支援課 保健師長 長島朋子



松戸市(千葉県)とは?



【位置】

都心から20km圏に位置。 千葉県の東葛地域(北西部)の一 翼に位置。

【名物】

梨(二十世紀梨の発祥地) ねぎ(全国3位、矢切ねぎ) 市役所すぐやる課(全国初)

【高齢者の状況】

平成31.3.31現在

総人口: 496,961人

高齢者人口:126,497人

後期高齢者人口:63,992人

地域包括支援センター 15か所

(委 託)

基幹型地域包括支援センター 1か所

(直 営)

高齢化率:25.5%

後期高齢者割合:12.9%

高齢者支援課の配置 (45名)

地域包括ケア推進担当室 (基幹型地域包括支援センター)

地域包括支援 センター班

室長 1名 保健師 4名 社会福祉士 4名 主任介護支援専門員 1名 事務職 3名

地域支援班

保健師 3名 事務職 4名

福祉まるごと相談窓口 6名

非常勤 (精神保健福祉士・保健師 看護師・社会福祉士)

本課

課長 1名 参事 1名 事務職 7名 社会福祉士 1名 非常勤 社会福祉士1名

非常勤事務職 9名

「地域共生社会」の実現に向けて(当面の改革工程)【概要】

(参考1)

「地域共生社会」とは

平成29年2月7日 厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本 部決定

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が 『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

改革の背景と方向性

公的支援の『縦割り』から『丸ごと』への転換

- 〇個人や世帯の抱える複合的課題などへの包括的な支援
- 〇人口減少に対応する、分野をまたがる総合的サービス提供の支援

『我が事』・『丸ごと』の地域づくりを育む仕組みへの転換

○住民の主体的な支え合いを育み、暮らしに安心感と生きがいを生み出す ○地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す

改革の骨格

地域課題の解決力の強化

- □住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域 課題の解決を試みる体制を整備【29年制度改正】
- □複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築【29年制度改正】
- □地域福祉計画の充実【29年制度改正】

地域を基盤とする包括的支援の強化

- □地域包括ケアの理念の普遍化:高齢者だけでなく、生活上の困難 を抱える方への包括的支援体制の構築
- □共生型サービスの創設【29年制度改正・30年報酬改定】
- 一方式が対象を対している。一方式を表現している。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方式を表現る。日本の一方は、日本の子は、日本の一方は、日本に、日本に、日本に

包括的支援のあり方の検

計

「地域共生社会」の実現

- □多様な担い手の育成・参画、民間資金活用の推進、多様な 就労・社会参加の場の整備
- □社会保障の枠を超え、地域資源(耕作放棄地、環境保全など)と 丸ごとつながることで地域に「循環」を生み出す、先進的取組を支援

地域丸ごとのつながりの強化

対人支援・行う専門資格に共通の基礎課程創設の検討

福祉系国家資格を持つ場合の保育士養成課程・試験科目の 一部免除の検討

専門人材の機能強化・最大活用

実現に向けた工程

平成29(2017)年:介護保険法・社会福祉法等の改正

- □ 市町村による包括的支援体制の制度化
 - 共生型サービスの創設 なと

平成30(2018)年:

- □ 介護・障害報酬改定:共生型サービスの評価 など
- □ 生活困窮者自立支援制度の強化

平成31(2019)年以降

: 更なる制度見直し 2020年代初頭

:全面展開

【検討課題】

- ①地域課題の解決力強化のための体制の全国的な整備のための支援方策(制度のあり方を含む)
- ②保健福祉行政横断的な包括的支援のあり方
- ③共通基礎課程の創設

等

地域共生社会とは

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

■支え・支えられる関係の循環 ~誰もが役割と生きがいを持つ社会の醸成~

- ◇居場所づくり
- ◇社会とのつながり
- ◇多様性を尊重し包 摂する地域文化



- ◇生きがいづくり
- ◇安心感ある暮らし
- ◇健康づくり、介護予防◇ワークライフバランス
- すべての人の生活の基盤としての地域
- ◇社会経済の担い手輩出
- ◇地域資源の有効活用、 雇用創出等による経 済価値の創出

地域における人と資源の循環 一个地域社会の持続的発展の実現~

- ◇就労や社会参加の場 や機会の提供
- ◇多様な主体による、 暮らしへの支援への 参画

すべての社会・経済活動の基盤としての地域









交诵

福まる・福祉相談機関連絡会

施策の方向性

包括的相談支援体制構築の取り組み

専門人材の機能強化 最大活用

地域包括支援センター 専門職の充実 地域を基盤とする 包括的支援の強化

多職種連携の推進

地域力強化の取り組み

地域課題の 発見力・解決力の強化

地域丸ごとの つながりの強化

地域ケア会議の共生対応

地域ケア会議・高支連・通いの場

地域の人材と資源の 開発・活用

【平成30年度】地域づくりフォーラムの開催

まつど市民活動サポートセンター・聖徳大学・地域包括支援センター・高齢者支援課が協働し、15圏域で「地域づくりフォーラム」を開催することにより、「地域の課題を地域で考える」意識を醸成し、「地域ケア会議」における課題検討・解決の仕組みを周知します。

【地域共生社会にむけた取り組みの推進経過】

H29年度

- ●福祉相談機関連絡会の立ち上げ(4回開催)
- ●堺市・鴨川市・世田谷区視察
- ●11/28 関係課職員勉強会の開催 講師:厚生労働省 政策企画官 野埼伸一氏
- ●千葉県主催 我が事・丸ごとの包括的な支援体制整備に係る 研修会報告

H30年度

●5/15 「地域共生社会を考える我が事・丸ごと まつど D E トーク」の開催

講師:厚生労働省 政策企画官 野埼伸一氏

●7/20 地域ケア会議研修会

「全ての人に居場所と出番のある地域づくり」

講師:法政大学教授 湯浅 誠氏

●10/12 福祉長寿部部内研修「地域共生を考える」 講師:慶応義塾大学大学院教授 堀田聡子氏

地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制構築事業を活用した 地域づくりフォーラムの開催 平成30年9月補正予定1,275万円(補助率3/4)

【具体的取り組み】 (H30.9~H31.3)

- ①「●●地区地域づくりフォーラム」実行委員会を結成 包括・まつどNPO協議会・聖徳大学
- ②実行委員会の開催 企画の検討
- ③地域づくりフォーラムの開催
- ④振り返り勉強会の開催

地域づくりフォーラム開催例

【テーマ】地域の課題をみつけよう ①地域の子ども、障害のある方、高 齢者・・・街歩きをして、地域の

強みと課題を把握。

- ②ワークショップで共有。
- ③解決策を地域ケア推進会議で検討。

地域づくりフォーラムの目的

まつどNPO協議会、聖徳大学および地域包括 支援センターが協働し、15地区で地域づくり フォーラムを開催することにより、「地域の課 題を地域で考える」意識を醸成し、「地域ケア 会議」における課題検討・解決の仕組みを周知 する。

| 地域づくりフォーラム事業の概要 | | | | |
|-----------------|---|--|--|--|
| 事業名 | ~我が事・丸ごとの地域づくり~ 地域づくりフォーラム | | | |
| 背景 | 少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など地域社会を取り巻く環境の変化に伴う、制度の狭間や複合化多様化した相談に対応するためには、これまでの制度やサービスでは支援が困難な事例も多く、新たなつながりや新たな支援の創出が求められている。また人口減少社会においては、支援の担い手不足や支援拠点の不足といったことも課題となっている。 | | | |
| 目的 | 制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として地域づくりに参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」で住民の暮らしを支えていく必要がある。本事業を通じて、地域住民が、自分の住む地域の課題を認識し、自分たちで解決する意識を醸成するとともに、地域の課題や資源を持ち寄り、個々人の持つ力を合わせて「地域ケア会議」に集結していく仕組みづくりを目的とする。 | | | |
| 運営 | 松戸市高齢者支援課、地域包括支援センター、NPO法人まつどNPO協議会、 聖徳大学が事務局となり、市内15地区の地域住民の方々と実行委員を立ち上げ て企画運営を行っていった。 | | | |
| 全体の様子 | 各地区で実行委員会の人数や属性にバラツキはあるものの、総じて高齢者分野だけではなく、子どもや子育で支援、障がい、商業関係者など他分野のステークホルダーが集まっていた。また年代も幅広く、民生委員や町会関係者、NPOや市民活動団体の担い手といった、これまで知り合うことがなかったメンバーによる交流や新しいつながりにもなっていた。フォーラム当日の企画については、地域の活動・居場所の紹介といったものから歴史を振り返るもの、また子育で世代をターゲットとした交流イベントや街歩き、食べることを通じて対話を生み出す場づくりなど、各地区の特性に合わせた多様な内容となった。 | | | |

15地区実行委員会と役割

実行委員会メンバー

オブザーバー 高齢者支援課管理職 まつどNPO協議会 聖徳大学(1年生3名 3年生1名) 地域包括支援センター 高齢者支援課(地区担当2名)



できるだけ高 齢分野以外の メンバーを加 える (⇒コア メンバー会議 で検討)

役割

- ①地域づくりフォーラム企画予算作成
- ②地域づくりフォーラム運営

事務局(聖徳大学)

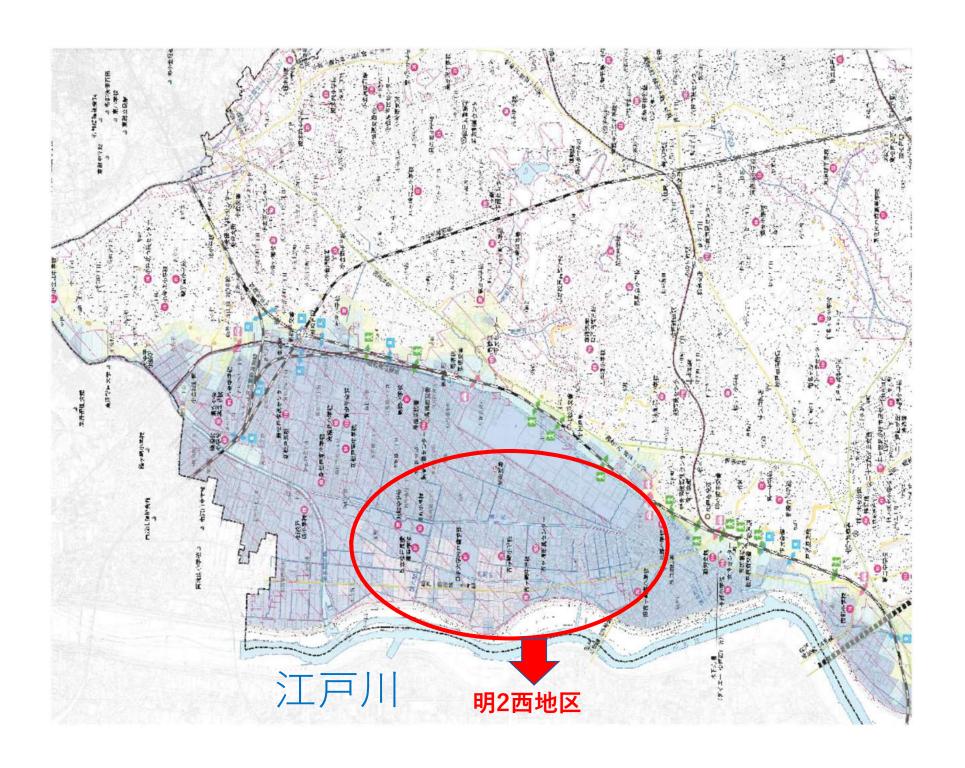
- ①会議の招集
- ②会議資料作成
- ③議事録作成
- ④高齢者支援課との連絡調整

実行委員会の開催は、3~5回

開催場所は地域包括支援センター

開催時間はメンバーで調整

会議費は1回 3000円(予定)



この地域の昔の農家さんは、農作業で使用する 船を持っていて、度々起こる洪水の時には、こ の船が交通手段となり避難に利用することもあ りました。今でも、当時のまま、船を備えてい る農家が何軒もあります。下の写真は先月撮影 させていただいたものです。







招和四十六年九月吉日

総 整 書 兵 衛 長

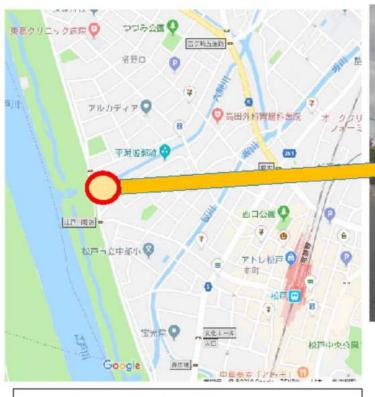
撰松文戸

Ш

改 鈴良清 木区

土松

市



先人が地域に 伝えてくれている、 水害による苦労の 歴史を記した 石碑②



坂川排水碑について

がおく対策に告がき重ねていた。 政雨がある度に二十余りの村々は水浸しとないにより整備された。しかし明治の中頃から 九房(庄左衛門)ら親子三代の苦難と長い年 人保年間にかけて、流山市鰭ヶ崎の名主渡辺 坂川の疎水工事は江戸時代後期の文化から

は安心して生活態度の教訓も印されています。 では安心して生活できるようになった。 では安心して生活できるようになった。

華県

実行委員会 メンバー

- 明第 2 西地区社会福祉協議会 会長
- 松戸市 主任児童委員
 - ・NPO法人まつどNPO協議会 コーディネーター
- 特別養護老人ホーム秋桜 施設長
- ・明第2西地域包括支援センター センター長
- 松戸市役所 高齢者支援課 職員(保健師等)

- ・ドリーム子育て支援センター 社会福祉士
- ・中学校 スクールソーシャルワーカー

地域課題・フォーラム開催背景

地域の問題

- ・新旧住民同士のつながりが希薄
- ・町会役員、民生委員等が高齢化し、次世代の地域リーダーが育っていない
- ・防災意識に差がある

旧住民・高齢者→危機感高い 新住民・若い世代→危機感低い



地域の課題

- ・住民自身がつながりの必要性に気づく
- ・災害に関する地区の特性を知り、防災意識を高める

どんなフォーラムであれば課題解決につながるか

・新住民は、この地域が災害時に危険な地域ということを知らない。防災の視点から歴史を語り継いでいく必要がある。

(昔から住んでいる農家の方から話をしてもらう)

- ・高齢者と子どもがつながる場(フォーラム)を作る
- ・備蓄や防災訓練での準備だけではなく、災害対策の視点を変える必要がある。



『防災』をキーワードに多世代が集まるお祭りを開催する

地域の課題 地域の資源 を

持ち寄る 地域づくり フォーラム



課題解決の 検討を行う 地域ケア会議

^



※駐車場の利用はできません。

(受付開始 12:45~)

<参加者数>

| | 参加者数 | 内スタッフ 数 |
|------|------|------------|
| 合計 | 126 | 41 |
| 内子ども | 28 | 6 |

地区别

| | 人数 | 割合 |
|-----------|----|-----|
| 樋野口 | 0 | 0 |
| 古ヶ崎 | 33 | 40% |
| 栄町 栄町西 | 40 | 49% |
| 栄町西 | 3 | 4% |
| その他 | 6 | 7% |

男女別

| | 人数 | 割合 |
|----|----|-----|
| 男性 | 32 | 43% |
| 女性 | 43 | 57% |

<参加者の声>

「避難所運営で障害のある人、外国人などい ろんな人が来るので、確かに考えることが多 いと思った。」

「最初の国土交通省の話を町会単位でやってもらえるといい」

坂川防災まつり 会場マップ

14:30~15:30 和室 「体験して備える②」

避難所運営ゲーム (HUG)

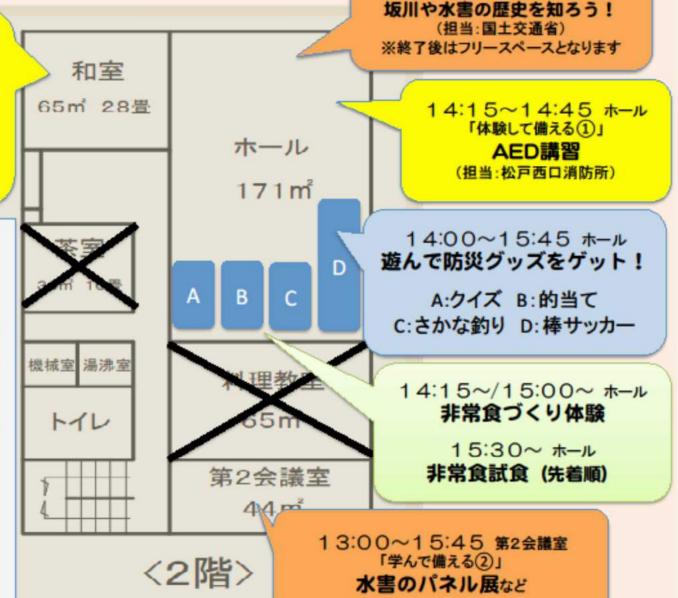
(担当:松戸市危機管理課) ※時間外は休憩室としてご利用く ださい

くお知らせ>

*受付・本部は1階となります。 *トイレは1階もご利用できます。

*スタンプ3つ以上集めると お得な景品をプレゼント!

- *スタッフはハッピを着ています。 困ったことがあれば、お声掛け下 さい。
- *階段等介助が必要な方はスタッフや近くの参加者にぜひ声をおかけください!
- *随所に設置されているアンケートにもぜひご協力ください♪



13:00~14:00 ホール 「学んで備える①」





協力

- 国土交通省 (講演)
- •松戸市消防局 西口消防署 (AED講習)
- 松戸市危機管理課(避難所運営ゲーム)
- ユニディ、コープみらい(防犯グッズサンプル紹介)

避難所運営ゲームHUG(ハグ)

H:hinanzyo 避難所

U:unei 運営

G:game ゲーム

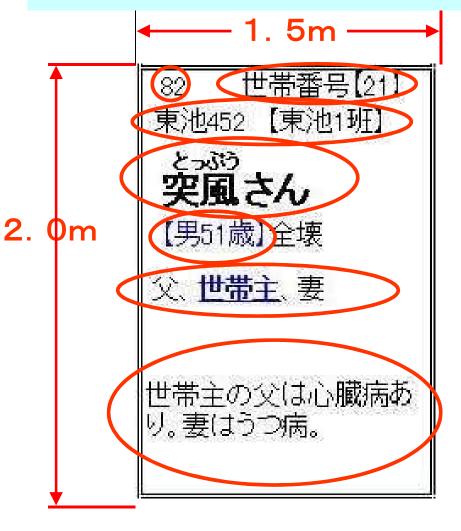
意味は「抱きしめる」

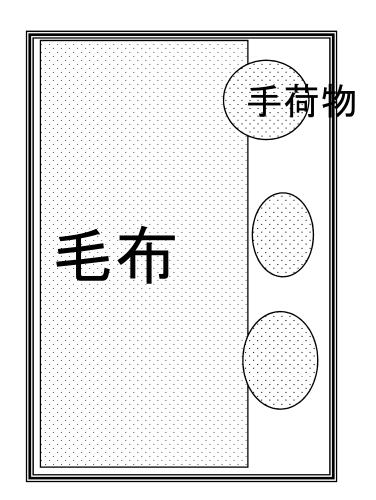
避難所運営ゲームHUG(ハグ)

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

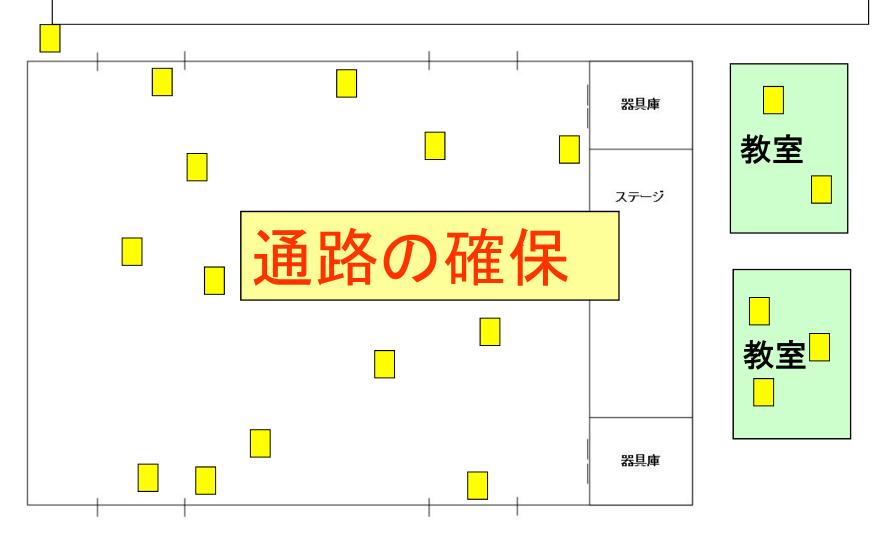
ゲームのしかた 避難者カード

このカードを配置する





ゲームのしかた 避難者カードを配置する



成果・気づき

- チラシの「楽しそう」「何かもらえそう」という参加意欲をく すぐる表現が、多世代の集約につながった。
- 実行委員会のお子さんが当日スタッフとして参加し、このような 機会も地域の人材育成につながると実感した。
- 子育て支援センターと包括支援センターがつながったことや協働 で作成した「資源マップ」は地域にとって大きな成果のひとつと なった。
- 農家に供えてある船や石碑の写真が、災害も含めた地域の歴史を 知る機会になった。
- 今回の参加で初めて「災害」について学ぶ機会となった人がいた
- 企業の協力で防災用品の説明や非常食を試食でき、対策を具体的に考えることができた。

課題・展望

- 新旧住民だけでなく、関係機関や民間も含めた地域のつながりを作る手段のひとつとして、多世代が参加できるような今回のフォーラムは有効であった。
- 自分の住んでいる地域を題材にすると感心も高くなるため、 地域の歴史や資源などをテーマに交流の機会を継続したい。
- HUG訓練は、住んでいる字ごとにグループを設定した。このような機会を継続することで多世代の顔の見える関係ができると感じた。
- 防災訓練は、通常日中に行うことが多いが、災害が発生する時間帯によって、参集者が大きく違うことが想定される。時間帯や平日、休日などさまざまな状況を想定して行う必要があると実感した。

課題・展望

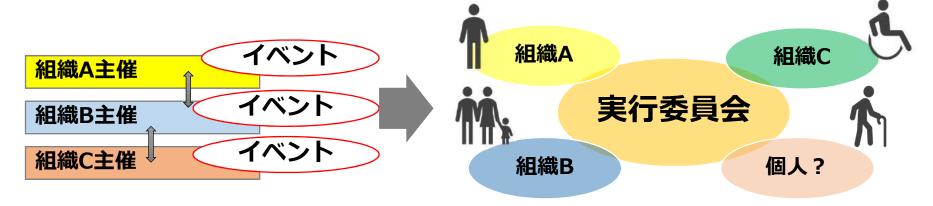
- 準備段階で、地域共生の視点から多分野の方々、民間企業、 地域の自治会、民生委員などが一同に会することで、様々な 情報や意見が出され、それが地域の問題や課題の発見につな がった。イベントの成功も必要だが、そこまでのプロセスに 非常に価値があると改めて気づいた。また、多世代のつどい を開催するためには、それぞれの分野の方々と議論すること が、円滑な運営につながると感じた。準備期間を十分に設け ることで、より多くの住民や関係機関、企業を巻き込むこと ができると思われる。
- 地域防災の点では「日中、地域には高齢者ばかりでどのように非難すればよいのか。誰が支援してくれるのか」「小中学校では、防犯の問題から、声賭けには反応しないという指導もあり、日常の中で住民のつながりをつくる難しさがある」

今後の展望とアイデア

く現役世代の次の担い手を巻き込むアプローチ>



<個人をベースにした有志だからこそできること>



展望

• 今後も地域で意識を持ち続けることが重要

(種を蒔くことで芽となる)

「鍵を締めて、ひとりで暮らしたい人」と「コミュニティがあったほうがいい人」、さまざまだが、一人ひとりに耳を傾け、働きかけるきっかけをつかむ。

・余暇の人をどう引っ張るか、声掛け、 タイミング→違う活動への入口



●災害に備えた活動

保健師

・災害時の保健師活動を十分に理解する。 ・地区特性(地理的、住民層、つながりなど)を知り、災害時のイメージ化ができる。 ・住民の防災意識や知識レベルを知る。

訓練

- ・地区単位の訓練
- ・行政主導の訓練
- ·防災訓練
- ·図上訓練
- ·医療救護訓練
- ・災害のシュミレーション

環境

- ·医療介護連携
- ·多職種連携
- ·庁内連携
- ・情報の見える化
- 防災マップの整備

住民

- ・防災意識を持つ
- ・住んでいる地域の 特性を知る。
- ・日ごろから地域連携が図れる。
- ·災害時の備えができる(3日分)。
- ・災害時に自分の行動を考える力を持つ。

●災害に備えた保健師活動

〇日頃から災害時に自助活動「自分の命は自分で守る」ことができるため

の予防活動を行う 日頃の健康教育 の中にも災害対策を取り入れる

感染症対策

集団感染を防止する

手洗い・うがい・マスク着用 アルコール消毒 災害時に自分の行動を 考える力を持つ

- ・防災訓練・HUG訓練・自分の地域を知る
- ・災害時の備え(3日分の備蓄)

例

- ・自分の病気を理解する(大切な薬の名前が言える)
- ・常にメガネなど生活に必要なものは、携帯する
- ・補助食(チョコ・アメなど)を携帯する

災害時に保健師は医療職としての活動が十分に行えるように、日ごろの健康教育などの啓発活動時に、防災の視点を取り入れて、住民が自ら行動が起こせるよう働きかける。